

第34回海外養殖魚研究会が、昭和60年 3月29日に、海外漁業協力財団図書室に於いて行なわれました。

[テーマ 1. チリの水産一般及び養殖の現状] 座間 彰

チリは $18^{\circ}30'$ — 56° Sまで直線で約4,000 kmの海岸線を有するが、大陸棚が極めて狭く、距岸20—30 kmで水深1,000 m以上となる。チリ中—北部の海岸線は単調であるが、湧昇流が発達しているために沿岸部に好漁場が形成されている。ここではイワシ、アジ、サバ、メルルーサが中心に漁獲され、主に魚粉の原料になっている。1982年にはチリの漁獲高は400万トンを超え、世界の水産国の仲間入りをした。チリ南部は厳しい自然環境に阻まれて街の発達が悪く、地元消費を目的とした小規模漁業が主体である。

魚類以外ではホタテ貝、その他の二枚貝、チリアワビ、イガイ類、ウニ、エビ・カニ、テングサが国内消費あるいは輸出用に採取されている。チリアワビ、テングサは日本向けに輸出されている。チリイバラガニはチリ南端のプンタアレナス周辺で漁獲されており、高価なので未調査水域での資源開発が望まれる。

チリ中—北部は海岸線沿岸が単調で養殖適地に恵まれていないが、ホタテ貝その他の魚介類について養殖研究が進められている。南部は氷食作用による複雑な海岸線が形成されており、養殖適地は多いが、社会的基盤（街、交通網など）の面で大きな障害がある。また塩分が低いので、養殖適種に限られる。現在、イガイ類の養殖が商業化している。

内水面養殖は商業的にはニジマスに対してのみに行なわれている。パンサイズでアルゼンチン、ブラジル向けに輸出され、国内市場は殆ど開発されていない。価格の面で肉類との競争を克服する必要がある。また、良質餌料の開発など問題が多い。

[テーマ 2 エジプトの養殖の現状] 田中秀幸

エジプトは日本の約2.7 倍の面積を有し、人口は約 4,300万である。国土の殆どは砂漠で、農地は僅か3%しかない。平均年間降水量はカイロで 25 mm、地中海沿岸で 190 mmである。カイロの平均気温は冬で 13°C 、夏で 28°C である。

1981年の総漁獲高は、142,000 トンでその内 74 %は内水面からの生産である。漁獲種は、海では、イワシ、アジ、エソ、ボラ類で、淡水では、90 %がティラピアである。漁獲高は、近年停滞気味で、その主な理由は、1971年に完成したアスワンハイダムにより、下流での魚類の繁殖に影響を受けたことと、ナイルデルタ及び地中海沿岸への栄養塩の補給が止まったこと等により、沿岸帯や内水面での漁獲量が減少したためである。近年の急速な人口増加に伴い食糧輸入は毎年増加し、1981年の食糧用水産物の輸入量は 73,000 トンである。

国民のタンパク源確保としてエジプト政府は近年養殖開発を積極的に推進しており、特に 1980 年以降はめざましいものがある。増養殖面積は 1970 年には 400 haであったのが 1984 年現在では、約 30,000 haと推定されている。1978年の増養殖生産量は 7,100 トンと推定され、その内訳は、淡水養殖が 4,250トン、内陸の塩水湖への移植放流によるものが 2,850トンとなっている。魚種は、淡水では、ティラピア、ボラ、コイ

で、塩水湖では、ティラピア、シタビラメ、ボラ、ウナギ、クロダイなどである。エジプトでは、ボラ、シタビラメ、地中海スズキ、クロダイなどが高級魚で、小売りで約1,000 - 1,200 円/kgで売られている。

ボラの種苗は、地中海沿岸で大量に採捕されているが、公害で減少してきている。淡水池でのボラの養殖に強い関心を持たれているが、順致と輸送方法に問題が多く歩留りが悪い。デルタ河口域では、400 - 500 haに及ぶボラとティラピアの大規模施肥養殖計画が官ベースで数ヶ所でおこなわれている。エジプトはこれまでナイルの恩恵に育まれていたため、伝統的な養殖技術というものはなく、施肥養魚の技術さえ持ち合わせていない。一応、2トン/haを生産目標にしているが、実際は0.5 - 0.8トン/haと低い。一部では中国との合弁で混養によって6トン/ha生産しているところもある。また、地中海沿岸地域の河口湖は総面積約27万haあり、しかも浅いため増養殖の適地と考えられるが、技術研究の未熟から開発が遅れている。

コイは、デルタ地帯で主に稲田養殖されているがもっぱら地元消費されている。稲田面積は22万haあり、米の生産量は平均5.7トン/ha（籾付）と高い。水田はエジプト最大の問題である農地の塩害化を防止する上で重要であるが米の価格が安いと普及は進展していない。

最近、農地の生産力の低下から集約養殖への関心が急激に高まりつつあるが、餌料原料の殆どを輸入に頼らずを得ず、その解決策を模索している状況である。

養魚と関連した問題点に住血吸虫がある。今までは、年1回のナイルの増水で住血吸虫被害は抑制されていたが、アスワンハイダム completion後、現在大きな社会問題になっている。国民の37%は感染しているとの報告もある。灌がい水路の水草と住血吸虫の駆除を兼ねて草魚の放流が計画されているが種苗生産技術が未熟なため進展していない。